

「被爆」伝え方に工夫

平和活動 高校・大学生が報告

県内で「平和活動」に取り組む高校生と大学生計17人が13日、平和記念資料館



(広島市中区)に集まり、各自の活動内容を報告した。コロナ禍の活動のあり方や、若い世代が被爆について発信する方法などについて意見交換した。

広島市立舟入高2年の中村瑞希さん(17)は昨年6月から、平和記念公園を英語で案内する「ユースピースボランティア」として活動。しかしコロナ禍で外国人観光客が減り、直接案内する機会はほとんどなくなった。そこで英語のガイド動画を他のボランティアと

「平和活動」の経験をふまえて意見を述べる高校生＝広島市中区

制作しているといい、「伝え方を工夫していきたい」と話した。

広島大4年の岩本理沙さん(22)は昨年11月、若い世代が平和記念公園で祈る「Peace Night Hiroshima 2020」を企画したメンバー。岩本さんは、学校での平和教育で知識は増えたが、発信の機会が少なかったとして、「被爆者の声を直接聞けない時代が来るのを前に、若者が工夫して発信する貴重な機会だった」と振り返った。

報告会には「核廃絶！ヒロシマ・中高生による署名キャンペーン」や「青少年国際平和未来会議」、「広島市・大邱広域市青少年国際交流事業」に参加したメンバーも集まった。

(比嘉展玖)